

# 浄土真宗の救いのよろこび

宗祖親鸞上人が如來の真実を示された  
淨土真宗のみ教えを  
共によろこび広めます



この世の縁の尽くるとき、如來の淨土に生まれて  
さとりの智慧をいただいて  
南無阿彌陀仏を称えつゝ  
眞実の道を歩みます

この世の縁の尽きるとき  
如來の淨土に生まれては  
さとりの智慧をいただいて  
あらゆるいのちを救います

このよび声に聞きひらき　如來の救  
永遠に消えない灯火が  
私の心にどもります

如來の大悲に生かされて　御恩報謝  
南無阿彌陀仏を称えつて  
眞実の道を歩みます

阿弥陀如來の本願は必ず救うまかせよと  
南無阿弥陀仏のみ名となり  
たえず私によびかけます



発行所  
岡谷市郷田一丁目6番3号  
TEL(0266)22-2524  
金松山 敬念寺  
発行  
敬念寺門信徒会  
編集  
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや  
彼(か)の人との  
出会い(であ)いの時間

今年は二人の義兄がお淨土に還り、寂しいお盆を迎えます▼夫を亡くした姉たちにどんな言葉をかければよいのでしょうか▼立場上いろいろな方の別離に立ち合い本当の意味での言葉を失うことが再三あります▼特に子供を亡くして、悲しみにくれるご両親には・・・▼子供の将来を夢見て、懸命に育て、囁き（ささやき）してきた大切な子どもを亡くされた悲しみは、どんな言葉を以てしても癒えるものではなく、胸が締め付けられる思いがいたします▼しかし、その悲しみが救われると思ったら、その悲しみを忘れたらとか、元気を出して立ち直れではなく、悲しい心のままにすべてを受け入れ、悲しみを通してしか出会えないものに気づき、出会っていく事はないでしょうか▼浄土真宗では、悲しみを通して、大悲してやまない阿弥陀様のお慈悲に出会っていく教えです▼阿弥陀様はどんな時でもその人に寄り添つていて下さいます。寂しく、せつなく涙を流す今、このときが、悲しみの手を差しのべて下さっている阿弥陀様との出会いの時でもあるのです▼子供さんの生きた時間は、たとえ短くても命ある限り精一杯生きられたと思います▼私たちは誰にも代わって貰うことのできない命をいただいて（相続）今を生きているのです▼それは、亡き人の死をご縁として本当の命の有り方に気づかせていただく大切な機会なのであります▼時間がかかりますが、どんな慰めの言葉より、先ずは一緒に悲しみに寄り添つてあげることが大切であり、そうすることが仏様の心▼お盆を迎える心でもあると思うのであります。

## 小僧の目

釋玄真

ご寺院案内行事

- 7月14日(土) 第29回ファミリー参拝 後 6:00
  - 8月 1日(水) 第33回早朝連続参拝 前 5:30  
～10日(金)
  - 8月 5日(日) 新盆合同法要 前 10:00
  - 8月16日(木) 孟蘭盆法要 前 10:00
  - 9月22日(土) 秋の彼岸法要 前 10:00

定期例会案内

- 7月20日(金) 講師 遠山 信敬先生(福井県)
  - 8月20日(月) 講師 長原 真了先生(長野市)
  - 9月20日(木) 講師 佐々木融淳先生(福井県)
  - 10月20日(土) 講師 岡崎 聖舟先生(京都府)

いずれも毎月20日 夜7:00からです

# 平成二十四年度年次総会開催さる

## —門信徒会組織改正を承認—

平成二十四年度敬念寺門信徒会年次総会が四月二十八日開催された。勤行に続き、新任お世話人の紹介と委嘱が行われた後、五十九名のお世話人（代議員）の出席を得て総会を開会、議長に小林睦巳氏を選出し議案審議が行われた。

平成二十三年度事業・決算報告を承認。次に機構改革に伴う門信徒会規約改正の件が提案され、これを承認後、役員の一部改選が行われた。

最後に、平成二十四年度事業計画及び予算を原案どおり承認し閉会となつた。

また、規約改正により退任となつた、武居進社会奉仕委員長からは退任挨拶をいただいた。

引き続き、会館講堂に会場を移し懇親会が行われ、お世話人同士の会話もはずみ有意義な情報交換が出来たひとときとなりました。

### II 門信徒会機構の変更

○社会奉仕委員会を「教化委員会」に吸収合併。

○教化委員会副委員長を常任委員会構成員に加える。



提案説明する大洞門信徒会長



お世話人を委嘱する住職



武居社会奉仕委員長退任挨拶

## 印象に残ったお葬儀

小松洋介君(中学三年生)のお婆ちゃんは昨年一月、お爺ちゃんは今年の一月、相次いでのお葬式でした。一月二十一日、JA虹のホールふじみで葬儀が行われ、孫代表の「お別れのことば」がとても印象に残りました。

(住職)

### ーお爺ちゃんへー 洋介より

僕が生まれてから十五年間、面倒を見続けてありがとうございました。おじいちゃんとの思い出は沢山あります。

まだ、保育園にも行つていなかつたとき、おじいちゃんと一緒に積み木をしたり、ハーモニカを吹いてもらつたりして毎日遊んでくれたこと。

石和温泉に家族全員で行き、温泉に入つたこと。

中学に合格(山梨県の進学校)した時、おばあちゃんと一緒に、とても喜んでくれたこと。

おばあちゃんがなくなつてしまい悲しい思いをしていたこと。

中でもお葬式、四十九日・新盆など、どれも一生懸命で、おばあちゃんに喜んでもらえるようにといつても強い気持ちで取り組んでいたこと。

一周忌前日に、「俺は行けないから病院でしつかり手を合わせる。お前らでやつておくれ。たのんだぞ」と父と僕に繰り返したのんでいたこと。他にも、まだまだ沢山の思い出が僕の心の中に浮かび上がります。そんな思い出の数々を一生の思い出として僕は生きていきます。

この一月十七日をもつて、僕たちもおじいちゃんと少しだけお別れです。お淨土でおばあちゃんやいろいろな人たちと好きなことを沢山して、お茶をゆっくり飲んでお話をし……終わることのない時間を楽しんでください。

お淨土は、自分の役割がすべて終わつたときにのみ、行く世界だそうです。僕もいつかは必ず行くことになるでしょう。そこで、またおじいちゃんに再会したら「自分は生きている中に、これだけのことをやつたよ。それに最後にした約束もしつかり守れたよ」と、胸を張つて言えるようにしたいと思います。

おじいちゃんは、家族思いで、とても優しかつたです。そんなおじいちゃんのことが大好きです。

七十六年間つらいことも沢山乗り越えてきました。本当におつかれさまでした。

## —御世話人の異動—

四月二十八日付

### 退任

長い間ご苦労様でした。

### 西川

長子さん（本町四）

### 武井

正巳さん（川岸中三）

### 佐藤

交一さん（下諏訪）

### 藤本

昇さん（神明町三）

### 新任

よろしくお願ひします。

### 西川

一昭さん（本町四）

### 鈴木

通夫さん（川岸中三）

### 前田

保さん（天竜町三）

### 矢川

利廣さん（下諏訪）

### 仲村

昇晴さん（神明町三）

## —役員の異動—

四月二十八日付

### 退任

長い間ご苦労様でした。

### 武居

進さん（社会奉仕委員長）

### 吉田

龍司さん（社会奉仕副委員長）

### 宮原

清さん（財務副委員長）

### 大滝

岩美さん（社会奉仕委員）

### 西岡

泰輔さん（社会奉仕委員）

### 一木

千恵子さん（教化委員）

よろしくお願ひします。

望月  
弘明さん（財務副委員長）  
吉田  
龍司さん（教化委員）  
小松  
滋子さん（教化委員）  
古屋  
典章さん（財務委員）  
西川  
一昭さん（財務委員）

## トピックス！

### —婦人部学習会開催—



講師の吉田先生からご指導いただきました

今年度の婦人部事業の第一回学習会が、六月六日（水）敬念寺会館にて行われました。吉田久子先生を講師に、十六名の皆さんのが参加され、熱心に作品づくりに取り組みました。

「ブリザーブドフラワー」とは、活きの良い花をそのまま乾燥させたもので、特殊な液を使って脱色した後着色し、一週間かけて乾燥させて作ります。その花を色とりどりに選び、オアシス等に挿し込んで作品に仕上げますが、その際茎を補強するため、手を添えて緑

のテープを巻いていきます。皆さん胸ワクワクさせながら、お互いに出来栄えを観賞し合いながら、楽しいひとときを過ごしました。参加者からは「生の花が長い間楽しまることは嬉しい」、「可愛らしい作品ができ、お友達へのお祝いに差し上げたい」、「山野草を育てたが、これもまた可愛らしくて良い」などの感想が聞かれ、満足そうな笑顔があふれた一日となりました。（取材・滝川）



24.4.22 日曜礼拝の朝

## 頑張つて咲きました！

境内にある梅の古木。厳しかったこの冬の寒さに耐え、例年になく見事な花を咲かせました。

第29回

### 敬念寺ファミリー参拝のお知らせ

日時：7月14日（土）夜6時～8時  
会場：敬念寺本堂ならびに境内  
内容：「おつとめ」「ゲーム」「お話し」「流しソーメン」「輪なげ」「ジャンケン大会」「綿あめ」「ポップコーン」「生ビール」「麦茶」を予定

ご家族おそいでお出かけください。  
(おつとめがありますので、念珠をお持ちください)

七月末日までにご協力お願い  
今年も寺の維持管理の資金、  
更なる教化活動の振興のため、  
会費のお願いに担当のお世話  
人が近日中にお伺いしますが、  
ご協力の程お願いします。  
○ご依頼額は年間三千円以上です。

## 門信徒会費

年次総会が行われ、今年度の門信徒会活動が始まりました。  
「新たな始まり」—教化活動充実の年—元年と位置付け、七月のファミリー参拝実施への参画等、若い年代層の積極的な関わりが期待されています。又教化活動に、まずお世話人が積極的に関わり、浄土真宗のみ教えを次世代に伝えまいりましょう。

(白田記)

## 編集後記